

【評価実施概要】

事業所番号	1092700010
法人名	(有) 桜井商事
事業所名	グループホーム 月夜野の里
所在地	群馬県利根郡みなかみ町真庭363 (電 話) 0278-62-3348

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	

【情報提供票より】(21年 7月 6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 3.8 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2階建ての 階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	14,010 円	
敷 金	有(円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100,000円) 無 <input type="radio"/>	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(7月 6日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低 75 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	月夜野病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの理念も地域との関わりを意識したものに作り替え、行事以外でも日常的な交流を大切にしているホームである。認知症についての知識は勿論、『心ある対応』とはいかなるものかを管理者は職員と一緒に追及している姿勢が感じられる。また、正月の書き初めや七夕の願いで書いた利用者の希望や思いを実現できるよう支援もしている。通りの向かいにある協力病院との連携体制も整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価については会議で改善に向け検討している。食事を楽しむために買い物や準備の他、職員も一緒に味わうようにした。各居室については、コルクボードを用意し、家族の写真や作品を掲示してもらい、居心地の良い居室作りを働きかけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議の中で取り上げ、各職員が意識できるよう取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度開催している運営推進会議では、ホームからの情報提供が中心ではあるが、それぞれの参加者の意識も高まり、会議以外でも花や野菜作り・行事参加や地域への働きかけにも協力してもらえるようになった。今後はさらに活発な意見交換をしたいと考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見や不安に対応するため、面会時には生活の様子を直接伝へ、必要な時には随時電話連絡し、家族や本人が納得のいくケアが提供できるよう話し合いを重ねている。正月には新年会を開き、意見を出してもらえるように働きかけている。現在も家族から気軽に意見を出してもらうにはどうしたらよいかを検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所との日常的な付き合い、保育園・小学校との交流、地域の行事への参加など、季節を通した関わりを大切にしている。理念の内容も地域とのつながりを意識したものに改め、今後も関わりを深めていきたいと考えている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度の初めに、グループホームが重視する地域との関わりを盛り込み、わかりやすい表現の理念に改めた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は各職員に理念と心得を配布し館内に掲示している。常に理念を意識し、ケアの実践に生かせるよう、会議や必要に応じてその都度伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方が野菜や花を気軽に持ってきてくれたり、地域の祭りや小学校や保育園の行事を見に行ったり、地区の神輿が庭に来てくれるなど、季節を通し交流がある。自治会や老人会には参加していないが、今後日常的な係わりを増やしていくため、回覧版も回してもらうようお願いしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果は会議で検討し、改善の方向で進めている。また、自己評価も同様に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、区長や老人会長・地域の代表者・行政職員・家族・利用者も出席して運営推進会議を開いている。ホームを理解してもらうことを中心に、情報提供したり行事のお誘いや協力をお願いしている。解りやすい理念を望む意見や野菜作りや花づくりへの協力姿勢も出始め、今後は活発な意見交換をしていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも関連会議に出席したり、職員全員が町の見守り支援員に登録するなど、行政との情報交換や協力を努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には面会時にホームでの様子を直接報告するようにしている。緊急時の他、必要に応じてその都度連絡もとっている。お便りにはホームの行事や職員の紹介などを載せている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会として毎年新年に交流会を開いている。また、意見や要望を出してもらおう声もかけているが、積極的な意見はあまりないため聞き出し方を工夫したいと考えている。ケアの提供に関しては、家族が納得できるよう話し合いを重ねている。	○	他のホームの情報や出された要望への対応などをお知らせで紹介し、家族にどんなことでも気軽に相談できるという安心感を知らせてみてはいかがか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は利用者との関係や職員の意向も検討し、利用者へのダメージを第一に考えて行うようにしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には認知症に対する理解を深めてもらうことを念頭に研修計画を立て、基礎研修の履修は勿論、スキルアップ研修なども受けてもらうように工夫している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは地域主催の会議参加や近隣の3ホームへの見学などを通じ交流しているが、今後は勉強会なども実施できればと思っている。グループホーム大会では事例発表し、県内の同業者との交流も考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、本人・家族に見学してもらっている。部屋の状態に合わせて体験入居にも応じている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『利用者さんあつての職員』であることを忘れず、ケアを提供するだけではなく、一緒に生活する中で「感謝の気持ちを伝え合える関係」を築いていくようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	書き初めや七夕を利用して日頃のお習字の成果を披露しながら、それぞれの言葉で率直に希望や思いを表現してもらえよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や職員の意見をまとめながら、ひとり一人に合った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度の他、必要に応じて見直しをしている。提供しているケアについて、毎日チェックしているが、モニタリングは1ヵ月ごとには行っていない。	○	状況が安定していても月に1度は介護計画の内容が現状に合っているか情報をまとめ、検討していただくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じ自宅への外泊時の送迎、なじみの場所への散歩や理髪店の利用、墓参りや買い物・外食など柔軟な対応に心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じた主治医に受診できるよう支援している。緊急時には協力病院へ受診することは家族も了解している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について、入所時に家族へ説明している。ホームとしては家族の意向に沿って、最大限受け入れていきたいと考えている。	○	方針を文章にしておくことで、ホームの意向を職員も自覚でき、家族に対して明確に示しながら状況に応じて支援できると思われる。関係者が共有できる方針を定めることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ひとり一人の誇りを尊重し、情報の取り扱いや声掛けに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、その人らしく生活してもらえるよう、それぞれの意向や状態に合わせた対応を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年の正月に朝食について意見を聞いたところパンの希望が多かったため、利用者と一緒に買い物をしてパンを購入している。希望者にはご飯も提供している。職員と一緒に野菜を刻んだり、お楽しみ食を選んだり、食卓も一緒に囲みながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やタイミングに合わせて入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事を利用して着物を着たり化粧をしておしゃれを楽しんだり、デイサービスの利用者に習字を教えてもらいながら交流している。それぞれができることをしてもらえりような場面作りを設定している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接の農園に野菜を取りに行ったり、庭で日光浴をしながらお茶を飲んだり、昼食を楽しんだりしている。日々の買い物や散歩も取り入れ、ホームに閉じこもらないよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠による弊害を職員は認識し、建物の2階部分ではあるが入口をはじめ館内は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、8月と11月に防災訓練を実施している。消防署立会いと自主訓練で、昼夜を想定し実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分・排泄についてチェック表を用いて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から見渡せる共同の空間は明るく広々とした雰囲気、畳の部分などもありのんびりできる工夫もされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの入居者や家族が思い思いのものを持ち込めるように声をかけ、飾りやすいようにコルクボードを用意している。		